

# 令和5年度 こども園（保育園）関係者評価

## 施設評価シート

子育てセンターとみがおか

### こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 6年 2月14日 9:30~11:00 (水)

### 【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

### 【園の教育・保育目標】

みんななかよし ～こどもがめぐり逢うすべてのことに～

### 【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

**重点目標** 『やってみよう やってみたい ～みて さわって きいて かいで あじわって～』  
 昨年度まで自己肯定感について取り組んできた。その中で自己肯定感を育むためには、子ども自身が自ら遊びに夢中になったり、満足するまで話を聞いてもらったりすることが、子どもの安心と周りの人への信頼に繋がっていくことを学んだ。子ども自身が安心して園生活を送れることは、自分の生活が保障され、自分の思いや発想を自由に表現できることに繋がる。それは子どもが主体となって生活や遊びの主人公になることである。  
 そこで今年度は、子どもが生活や遊びの主人公となるための、人的環境、物的環境、自然など子どもを取り巻く環境について皆で学びながら、保育実践を積み重ねていく。そして季節を感じたり、五感を存分に働かせながらたくさんのかんじを感じて、子どもがゆったりと生活ができるようにしていく。

### 【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
<b>I. 目標の理解</b> 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	・年度初めにグランドデザインの共有を行い、園の教育・保育理念の理解と意識につなげた。 ・グランドデザインに対し、意味や内容を捉えていない訳ではないが、職員一人一人が説明できる程の力量は備っていない。理解を深め、より園の取り組みを教育・保育計画に反映していきたい。 ・重点目標に対しては、子どもを取り巻く環境について研修等の機会を設け、学びを活かしながら実践につなげた。	4	・令和5年度のこども園関係者評価における、参観や取り組みに対する資料等を拝見する限りでは、評価できると考えている。 ・グランドデザインは園長が説明できていれば良いと思う。必要であれば研修の度に職員に伝えていけば良い。 ・評価を気にするあまり、指示がないと動けない大人になってはいけぬ。評価のための取り組みにはならないようお願いしたい。
<b>II. 教育・保育の計画性と内容</b> 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	・指導計画の作成においては、クラス間で話し合いながら偏りがない様、作成をしている。 ・保育環境では、子ども達が期待したり、安心できるような環境づくりを意識して取り組んだ。 ・計画を実践していく中で、遊びの連続性、遊び込める環境が大切であるが、その時は盛り上がるが、単発的な活動になりがちであった。直接体験や感動体験から、子ども達が遊びを展開していけるような、連続性のある活動を意識していきたい。 ・計画に対し、実践、振り返りが重要であるが、保育の振り返りや、次に活かす為の職員同士が話し合う時間の確保が難しい。	4	・子どもの様子を見て、遊びや活動など次に繋がる保育を行ってくれている。 ・園だからこそ、家では中々経験できない大胆な遊びや自由な遊びを提供してくれていると思う。綺麗に整えられている環境が良いとも限らない。子どもの自由な発想を大切に型にはまらない保育を今後もお願いしたい。 ・保育に必要な教材準備等、園だけでなく保護者とも連携していきながら行っていくものもあれば、より園の取り組みが保護者に伝わると思う。
<b>III. 子どもにとっては</b> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	4	・集団生活の為、難しい部分もあるが、子ども一人一人の気持ちに寄り添うことを意識した関わりを心掛けることができた。また、カンファレンス等で、情報共有し育ちにつながる支援を行っている。 ・散歩に出掛ける機会を意図的に多く設けた。その中で、地域の方との触れ合いを通して関わりを楽しむことができた。 ・戸外活動が増えたことで、生き物や自然に対する関心が高まり、飼育や自然物を使った製作、っこ遊びなどが盛り上がった。	4	・親は、自分の子どもを否定してしまいがちだが、園の先生達は子ども達の意思を否定せず尊重してくる。 ・散歩の計画が充実された為、雨で活動が中止になっても、子どもがまたすぐに行けると分かっている為、中止になった事を嫌がらなくなった。 ・運動会では、子ども達に合わせた競技のやり方に感動した。子ども達の「出来る」「頑張ってみよう」を上手に引き出されていてとても良いと感じた。

<p><b>IV. ファミリーにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に相談できる</li> <li>2. いつでも保育に参加できる</li> <li>3. 必要な情報が得られる</li> <li>4. 保育を通して地域に親しむ</li> </ol>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時には、十分なコミュニケーションが取れない場合もあるが、丁寧な対応を心掛けている。また、必要に応じ面談等個別対応も行った。</li> <li>・今年度は全クラスで保育参加を実施し、園での様子を知ってもらったり、家庭での様子を聞いたりと、情報共有の場を設けた。その中で、保護者の声を聞き、寄り添いや支援につなげられるよう機会を大切にしたい。</li> <li>・保護者の方への情報発信では、園内掲示を一か所にまとめることで、情報の統一化を図ったが、園に来ることが難しい方への配慮は工夫が必要と感じる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の先生はいつも親身になってくれて話を聞いてくれる。</li> <li>・子どもの様子を知りたいのであれば、親も自分から先生に声を掛ければ良い。</li> <li>・情報の掲示場所が変更になったが問題はない。</li> <li>・保護者の意見に、父親が迎えの時だと職員からの伝達がない。と意見があったが、たまたまのケースが印象に残る場合もある。殆どの保護者からは良い評価を頂いているので、今後とも子ども・保護者への寄り添いをお願いしたい。</li> </ul>
<p><b>V. 地域にとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰でも親しく訪ねられる</li> <li>2. 園の内容がよくわかる</li> <li>3. 緊急の時頼りになる</li> <li>4. 子育てに夢がもてるように</li> </ol>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援センターが併設されていることで、子育ての情報発信だけでなく、園の様子や取り組みに関心をもっていただく機会になっている。</li> <li>・新型コロナによって中止していた保護者参加型の行事や活動も状況をみながら再開をした。また、支援センター利用者には、曜日や時間指定だが西側園庭の開放も再開している。</li> <li>・園見学は、室内案内を再開したことで、より園の取り組みに関心をもっていただいている様子が伺える。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のサロンに来てもらったり、地域の読み聞かせのボランティアの話や、皆さん元気をもらえると喜んでいる。地域の方の受け入れや交流を今後もお願いしたい。</li> <li>・子育てに夢がもてるように…の項目では、第一子に当たる家庭の殆どがアパート住まいであった。一人でひっそり子育てをしている保護者も多いのではと思うと、気づいてあげにくい方への支援が課題だと感じる。</li> </ul>
<p><b>VI. スタッフにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個性が生かされる</li> <li>2. 快適な職場づくり</li> <li>3. 生活や遊びの文化が伝えられる</li> <li>4. 視野を広げて自ら学ぶ</li> </ol>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやり、チームとしてのまとまりを考えすぎて控え目になってしまう時がある。</li> <li>・それぞれの得意、良さを活かすことで魅力的な目づ、子ども達の良い手本となれるようにしていきたい。</li> <li>・日々の保育、現状に満足しないよう、自身の保育を振り返る機会や、気づきを得るための自己学習を行っていきたい。</li> <li>・子ども達が過ごす室内環境においては、まだまだ清掃や整理整頓は十分とは言えず、一人一人が意識をもって取り組む必要がある。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学んでいく姿勢ができていくことは良いが、チームとして取り組む意識があることは素晴らしいと感じる。今後の課題として、自由に意見を言える方法や手法を取り入れていけると良い。</li> <li>・生活の中では父親や母親等、男性・女性が存在する。園生活においても、女性ばかりに囲まれていることは不自然。父親と同じ目線で話したり出来る存在と考えると、男性保育者が少ないと感じる。</li> </ul>